

随想録 エントロピ 耳順

(中原信生 還暦記念誌、1991.3)

中州への企業誘致 (中国要人との会談記録)

於北京・長富宮飯店

1991.3.30

中国河南省省長 李 長春

名古屋大学教授 中原信生

三晃空調(株)社長 斎藤 穎

ほか

李 :まず、皆様のご来訪を熱烈歓迎します。私は河南省に転勤したばかりですが、北京で皆様にお会いできるのは非常に嬉しいことです。[(日本語で) いままで、私は遼寧省の省長でした。] その時、日本語を勉強していましたが、今、ほとんど忘れしました。

中原 :李省長が会議中で【注:中国第7回全国人民代表大会第 次全体会議】お忙しいところ、私たちに会いに来て下さって心から感謝します。【(中国語で) 我是第5次来中国、在中国有好多老朋友。】今、中国語を勉強中ですが、始めたばかりで良く話せません。

李 :言葉は人間交流の道具で、私たちが再びお会いする時には通訳が要らないのが望ましいですね。教授が中国語で、私は日本語で、お互いに助け合えるように努力しましょう。

ちょっとご紹介しましょう。こちらは私の助手の鐘さん【注:河南省人民政府省長助理・鐘力生】そちらは計画経済委員会の姚さんです【注:河南省計画経済委员会主任・姚如学】。よろしくお願いします。今回、彼等を連れて、皆様にお会いするのは、皆様にもし具体的な質問とか要求とかがあれば、彼等に相談してほしいからです。

中原 :私からもご紹介しましょう。こちらは三晃空調の斎藤社長で、中国に来られたのは今回で15回目だそうです。他の方たちには自己紹介して頂きましょう。[それぞれ自己紹介。]あの若者は私の学生の李克欣君で、河南大学の講師でした。私の研究室で博士課程を修了してから李省長のところに就職してもらいましょうか。

李 :われわれは海外に留学中の各分野の人材が河南省に就職するのを熱烈歓迎します。もし、李君が私の所に就職すると、私たちは一緒に日本語を勉強することができますね。

中原 :今回、私は鄭州へ講演に行きますが、ほかの方々は河南省の鄭州紡績空調設備工場が日本と合併事業をお望みとのことで、私がお願いして現状を見に行くのです。河南省の各方面の方々と会談する予定もあります。斎藤社長は上海、大連などの地方で中国と広範囲に合作などをされていますが、河南省は今度の訪問がお初めてです。

李　　：最初ですから、私から河南省の特徴を皆様に簡単に紹介しましょう。河南省に転勤してから私は各地を回りました。第一の印象は、河南省各地は何処もかしこも文化財だということです。安陽・鄭州・洛陽・開封等、地方の在り来たりの物にもある程度の歴史を持っていて、中華民族の知恵の象徴であり、文化財と言えます。

皆様はご存じかもしれませんが、中国語の「商人」と言う単語は、本来の意味が河南省の商丘という地方の人を指しますが、今で言うビジネスマンの意味でしょう。大体、昔の中国の商時代に、商丘辺りの人々の主な仕事はビジネスをやっていました。そしてビジネスをする人を段々に「商人」と言うようになりました。つまり、3500年前、河南省の人々は貿易と交流も上手だったのですね。ほかにこう言う話もあります。中国人の名字の中に「鄭」という名があり、実は、この人達の祖先は鄭州の人でした。鄭州というのは、商時代の名所でしたから、これらの人達はそれが自慢だったのでしょう、鄭州の地名を自分の名字にしました。その他、安陽の殷墟、鄭州の商城遺跡、少林寺、洛陽の龍門石窟、開封の宋時代の建物などが観光の名所でしょう。こう言っていいかどうか分かりませんが、中華民族の根と源を探したくなれば、河南省に来て下さい。

以上、河南省の何処にも文化財があるというのが第1点です。第2の特徴は、河南省は資源が非常に豊富だということです。全国でも鉱産物の埋蔵量が第1位を占めるのはAl2O3 鋁、モリブデン(Mo) 鋳で、第2位は金、石炭等です。石油の生産量は黒龍江省、山東省、遼寧省の次で第4位、年産量が900万トンです。最近開発中の葉県のNaCl 鋳の埋蔵量が30億トンですね。

河南省は中国の農業大省です。小麦の生産量は全国で第1位を占め、綿の生産量は全国2番目、搾油作物と家畜の数も第2位です。農業資源の開発とその精細加工の方面での合作を行う潜在性は大きいと思います。河南省はもと工業の基礎が弱かったですが、40年前から、色々な大手企業が出来ました。これらは今でも、中国の国営経済の基幹企業として順調に運営されています。河南省は全国の六つの綿紡績基地の一つで、製紙工業が比較的発達し、煙草工業は全国で第2位です。機械工業も発達しており、洛陽の第一トラクター工場は世界でも有数な大手トラクター工場の一つだそうです。また省内のどこでも中小企業が存在しています。

第3点は河南省は交通が便利だということです。歴史上、河南省は中国九州の中心であって中州(注、普通は中原と言われる)と言い、「中国を取りたいときは、まず中州を取らなければならない」という言葉がありました。河南省の交通地理的位置はとても重要です。今、中国の南北・東西の鉄道の最も重要な交差点です。アジアとヨーロッパの連絡鉄道である中国の連雲港からオランダのロッテルダムまでの鉄道も鄭州を通ります。鄭州駅の鉄道編成規模はアジアで第1位です。国務院からも許可されまして、内陸の荷物を鄭州駅から直接に世界各地へ輸出できるようになりました。

第4点として、河南省と日本との合作についてお話ししたいと思います。沿海地区より遅れていますが、近年、安陽のカラーテレビブラウン管用ガラス工場と平頂山のタイヤ織

維工場おけるに両国の合作は成功していると思います。今後、河南省が外国との合作を行いたい重点分野は化学工業方面で、大規模な合作をしたいと思います。石油化学工業、石炭化学工業、NaCl 化学工業等の方面に、河南省が有利な条件を持っているからです。紡績工場も大規模に改造したい。また食料品工業も発展させたい。先にも話しましたように、河南省は農業を主としておりますから、農業方面での日本との合作項目も特に歓迎します。日本の農産物の基地として、広い範囲内に合作しようではありませんか。

中原　：詳しいご紹介をどうも有り難うございました。ただいま省長の仰言った四つのポイントについて、私の考えを話しましょう。まず、第一の点については、河南省は中華民族の文明の発源地ですね。去年、私が河南省に行った時に、深い印象受けました。仕事の暇に、洛陽と鄭州のあちこちへ見物にいきまして、殷時代の遺跡を参観したかったのです。今回は開封に行きまして、歴史的な地区や河南大学を訪問する予定です。

第2点については、河南省が資源豊富なことは早くから聞いていましたが、このような詳しいデータを聞くのは初めてです。

第3点の河南省の交通について、私から友人として反論があります。現代交通は飛行機の時代です。荷物の運送や人々の旅行には鉄道や自動車に大きな役割がありますが、仕事上での人々の長距離の移動には、やはり飛行機が便利です。この点見て、河南省の交通は余り便利ではありません。鄭州に行きたいと思っても、なかなか困難です。

李　　：われわれは鄭州に国際空港を造りたいと思っています。内陸の国際交流の大門として、鄭州と外国との距離を短くするように努力しています。この二人【注：鐘力生省長助理と姚如学主任を指す】が今回北京に来た目的は國務院の關係部門にその計画を報告することです。時間が掛かるかもしれませんが、どうか2、3年間お待ち下さい。

中原　：次に4番目の点について話します。私はよく中国と學術上の交流を致しました。去年、中国の友人から、日本の企業を中国に紹介して、できれば合併企業を造りたいとの希望がありました。今回、この代表団をお連れして河南省を訪問する主たる目的がそれです。河南省との合併企業の可能性をよく検討したいのですけれども、私が事前に折衝してみた幾つかの会社は、中国の投資問題についてあまり興味を強く持っていないようでした。主な原因は次のとおりだと思います。

河南省は中国の内陸省ですから、交通があまり便利ではない。特に、海外と連絡するのがまだ難しいです。

河南省の知名度がとても低いことです。日本人には鄭州市を知る人が少なく、河南省を理解できる人はもっと少ないと思います。

中国との関連工事や合併企業において、いい面もあったでしょうが、悪い体験もありました。だから日本の企業は非常に慎重に考えています。

天安門事件の影響もあります。

以上の考えが正しいかどうか別として、政治家ではない私の立場として言えば、これから中国が良い方向を歩くのは事実だと思います。困難はあるでしょうけれど、投資環境は

以前よりよくなったと思います。それが、私が今回の代表団をお連れして、河南省を訪問する理由です。この方面については経験の深い斎藤社長の意見を聞きましょう。

斎藤：中原先生のご意見に同意します。困難があるけれども、お互いの協力の下にうまく進めることができると思います。今、中国に合併企業を造るのが難しい点は、企業と企業間の材料、製品の流通がまだまだスムーズにいかないからです。貿易の国境がありませんから、われわれは今後中国と非常に広い範囲に合作できる可能性があると思います。

李：皆様が仰ったように河南省の投資環境が不備なのは事実です。河南省は内陸省で、長い間、比較的閉鎖的な省でした。今回、中央政府が私を派遣したのは、つまるところ沿海省と内陸省との間の幹部交流により内陸省の環境を開放するための手法の一つです。私たちは最近、河南省の8年計画を立案しました。その中で最も重要な点は環境を改善することです。

環境改善のハード面について、六つのプロジェクトを計画しました。

国際空港を造ります。

26万回線の自動交換電話ネットワークを造ります。

鄭州駅を改造します。

250万KWの発電所を造ります。

交流、貿易の施設を完備します。

開封－鄭州－洛陽間の高速道路を造ります。

環境改善のソフト面について、主に工作效率を高めるために思想教育をします。そうすることにより、投資に関するハードな環境もソフトな環境も今よりよくなると思います。

企業間の商品の流通については、短時間に日本のレベルに到達するのは困難です。これは、商品経済の発展によって、また経済改革の進展によって、だんだんにうまく行くようになると思います。

十数年の経済改革を通して、わが国の経済が長足に発展したのも事実です。いままでの物不足経済（売手市場）から、部分的に買手市場になりました。とくに日常生活方面ですね。12億という人口世界一の国としては大した成績といえますね。十年前には中国人にとって、お金が重要なだけでなく、布購入券と食糧配給券も大切な物でした。今、子供に布購入券とはなにか、と質問をしてもきっと分からないと思います。十数年の努力の結果が中国人民の生活レベルを高くしただけではなく、世界経済の発展と安定にも、大切な役割を果たしていると思います。

現在、エネルギー、原材料など経済の基礎方面がまだ不足しているのも事実です。これらの供給の方法に計画性を加味して、重点産業の要求を満足させなければなりません。経済発展の進展によって、経済改革を推進します。計画経済の長所と市場経済の長所を旨く発揮します。80年代に於ける実践結果がこの道が正しいことを証明しました。

天安門事件が中日両国人民の交流の障害にならないよう私は希望します。李鵬総理が今回の全国人民代表大会に報告したように、80年代の経験というのは、経済の発展速度が

速すぎたことと教育の不足とがあります。今回の全国人民代表大会は我国の政治、経済の前進の道のマイルストーンで、今から、中国共産党の指導の下に、中国人民は最も中国の国情に合う道に前進できることは間違いありません。

80年代の成績と欠点について、世界の人人が正確に評価されるのを私は確信します。私がとても嬉しいのは、河南省の投資環境がまた不十分な現在、中原教授が日本の企業家を連れて、河南省に考察して来られました。心から感謝します。

李鵬総理は世界に宣言しました。我国の政治形勢が安定で、経済政策も変更しない。私は会議中にも拘らず皆様にお会いする目的の一つは、皆様を通して世界の友人に話し、河南省が外国の投資との色々な合作を歓迎したいからです。是非、よろしく見てきて下さい。

今後の交流・合作により中日両国は世界に貢献出来る筈ですが、今の世界に、合作の面もあるし、貿易セーフガードの面もあります。日本は貿易立国の国で、中国は巨大な市場と思い、広い範囲の国際貿易は日本国の存在し得る基礎であり、国際貿易の振興は中国の発展の要素の一つです。だから、中国と日本は子々孫々友好を保つために、また、両国の経済を互いに発展させるためにも、常に交流が重要だと思います。今後、合作の件で私達の助力が必要なときは私の二人の助手【注：鐘さんと姚さん】に遠慮なく申して下さい。河南省に来られたら、是非あちこちを見物して下さい。河南省の人は親切だと思いますよ。

中原：忙しいところ、わざわざホテルまで来て下さって、私たちにお会い下さり有り難うございました。

皆様、大変に有り難うございます。謝々。

・通訳：楊 誠光

・記録・整理：李 克欣

・さらに本集に収めるために中原が若干文章を校正した。
：